

「ONE TEAM」



生徒会長

森 平 晴 風

今年度の生徒会は「晴都×生徒」というスローガンをかけ、活動を行ってきました。このスローガンには、晴れた都のように爽やかで活気のある学校を、生徒自身の手で創り上げるという意味があります。また、私は今年、個人的な目標をかかげていました。それは「信頼関係を築くこと」です。昨年度書記局員として常任委員会に所属していて、先輩方との信頼関係があったからこそ、良い活動ができたと思いますし、会長になり、良い学校を創るには、まずは常任委員が信頼関係を築くべきだと考えたからです。

一年間、様々な活動を展開する中で、特に印象に残っているのは、四つの委員会が連携して行った、「東新のカラダウィーク」です。連携することで、より大きなプロジェクトで、全校に広めることができます。私たち常任委員会は、全校レクリエーションを行いました。企画を一から考え、少しずつ準備をしていきました。全校を縦割り班に分け、表を作ったり、イラストを描いてもらったり、クイズを考えたりと、とても準備は大変でした。途中、うまくいかないことがありましたが、委員同士

で話し合い、解決策を見つけることができました。多くの人の支えと協力により、からだウィークを成功させることができました。

また、あいさつ運動では、とても嬉しいことができました。通った人二百十一人に対し、あいさつを返してくれた人二百人という、素晴らしい結果がでたことです。毎朝行っているあいさつ運動で、生徒の意識が変わってきているのだなと感じました。地道な活動ではありませんでしたが、とても嬉しかったです。

このような活動を通して私は、「変化」と「主体性」を強く感じました。始めの頃は、仕事が人任せだったり、意識が低かったりする人がいました。しかし、企画を通して、自ら意見を出したり、自ら進んで行動したりと、変化が見られました。また、男女の仲や学年を越えて協力する姿を見て、信頼関係が築けているのだなと思いました。私は常任委員会が「ONE TEAM」になることができたいと思います。

一年間生徒会長を務める中で、多くの貴重な体験をさせて頂きました。この三年間で、最も速く過ぎ去った一年のように感じます。私にとって、実りある一年となりました。

この一年を通して、「晴都」のような学校に近づくことができましたでしょうか。私は「晴都」になったと感じています。最後になりましたが、支えて下さった先生方、企画に協力して下さいました生徒のみなさん、本当にありがとうございます。